

Milagros de Nuestra Señora by Gonzalo de Berceo

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

Gonzalo de Berceo was a Castilian poet born in the last years of the twelfth century in the Riojan village of Berceo, close to the major Benedictine monastery of San Millán de la Cogolla. He is celebrated for his poems on religious subjects, written in a style of verse that has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' work). Gonzalo is recorded as being a deacon in his home parish in the early 1220s, and as a priest from 1237 on.

Milagros de Nuestra Señora (Miracles of our Lady), Berceo's most studied work is a collection of twenty-five miracles of the Virgin Mary. The form of these miracle tales written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way) is simple as is Berceo's style in general.

The present translation is made from Tale 20 to Tale 22.

聖母の奇跡Ⅳ

ゴンサロ・デ・ベルセオ作
太田強正 訳

ゴンサロ・デ・ベルセオ (Gonzalo de Berceo) はスペイン北部のラ・リオハ (La Rioja) 地方のベルセオ (Berceo) 村で 1200 年の数年前に生まれたようである。何年に死亡したかは不明で、スペインで現在名前の分る最古の詩人である。近くあったサン・ミリャン (San Millán) 修道院で教育を受け在俗司祭¹⁾となり、修道院長の秘書を務めた。

この作品はメステル・デ・クレシェーア (mester de clerecía) と呼ばれるジャンルに属するものであるが、これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人 (juglares) によるメステル・デ・フグラリーア (mester de juglaría) と対をなすものである。

ベルセオは前者の先駆けで、この「聖母の奇跡」はその代表作である。これはクアデルナ・ビーア (cuaderna vía) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩で書かれた宗教詩で 25 の奇跡物語が記されている。ベースになっているのは 1910 年にコペンハーゲン図書館で発見されたラテン語の写本 (MS Thott 128) であるとされている。

今回は第 20 話から第 22 話までを掲載する。訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通

るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

本稿は Edición de Juan Carlos Bayo e Ian Michael に基づいているが、訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英語、イタリア語訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

20 醜聞した修道士

461 もう一つの奇跡についてあなた達にお話ししようと思います
それはある修道会の修道士に起こった事です
悪魔が彼をひどく驚かせようとしてました
しかし聖母がそれを妨げたのです

462 修道会に入り、修練者であった時から
常に聖母に仕えることが好きでした
バカなことを慎み、姦淫のことなど口にしませんでした
しかしついにある悪徳に染まってしまいました

463 ある日偶然に酒蔵に入り
ワインを度を超して多量に飲みました
酔って気がふれて正気を失い
夕べの祈りの時間まで固い地面に横たわっていました

464 もう夕べの祈りの時間になって、太陽の光も弱々しくなっていました
寝ぼけ眼で呆然として
ほとんど無意識に修道院の方へ歩いて行きました

皆は彼が飲み過ぎたのが分かりました

- 465 自分の足で立ってはいられませんでした
いつもそうしているように教会へ行きました
悪魔は彼に足払いをかけようと思いました
簡単に彼を負かすことができると思ったからです
- 466 怒り狂った雄牛の姿で
血相を変えて足で土を蹴散らし
恐ろしい角を向け、残忍な怒りを浮かべ
言わずと知れた裏切り者は彼の前に立ち止まりました
- 467 彼に悪魔の常である邪悪な仕草で
内臓に角を突き立てるような身振りをしました
この善良な男は仰天しました
しかし王冠を頂いた女王である聖母が彼を助けてくれました
- 468 聖マリアが素晴らしい衣装で現われました
生きた人間には言い表せない程の衣装でした
彼女が彼と悪魔の間に入ると
その猛々しい悪魔の雄牛はたちまちおとなしくなりました
- 469 聖母はマントの裾で悪魔を威嚇しました
これが悪魔にとって大打撃になり
大声で泣きながら逃げ去りました
修道士は聖なる父のおかげで無事でした

- 470 すぐ後で数歩行くと
階段を上り始める前に
悪魔はものすごい姿で再び彼を襲いました
牙で襲いかかる犬のように
- 471 歯を剥いてすごい形相で
顔をしかめ、目を見開き
かれの背中も脇腹も全部粉々に砕くこうとしていました
《この不幸ものめが—と悪魔は言いました—私に対する罪は重いぞ》
- 472 修道士は自分が噛み碎かれるものと思いました
非常な窮地にあり、絶望していました
しかし完全な徳を備えた聖母が助けに入り
犬は雄牛がそうであったように追い払われました
- 473 階段の上にある教会に入ると
悪魔は三たび彼を襲いました
恐ろしい野獣のライオンの姿で
それは想像できないような力を持っていました
- 474 修道士はそこで食い殺されるとと思いました
本当に恐ろしい遭遇を目の当たりにしてからです
彼にとってはこれは過去に起こったすべての事より悪い事でした
心の中で彼は悪魔を呪いました

- 475 彼は言いました、《私を助けてください、聖母様、聖マリア様
今日この日にあなたの恩寵が私を助けてくださいますように
私がかれ以上ない大変危険な目に遭っているのですから
お母様、私の大いなる愚行は心に留めないでください》
- 476 修道士が言い終わらないうちに
常にそうであるように聖マリアが現われました
ライオンを痛めつけるために棒を手にもって
間に割って入り言いました
- 477 《偽りの裏切り者よ、あなたは懲りない
でも私は今日あなたの欲しがっているものをあげよう
あなたがここから立ち去る前にそれを受け取るでしょう
あなたが誰と争いを起こしたのか知ってほしい》
- 478 聖母はライオンを棒で激しく打ち始めました
大きい殴打が小さい殴打をかき消しました
ライオンは非常に苦しみました
今までこんなに脇を打たれたことはありませんでした
- 479 聖母は言いました、《偽りの裏切り者よ
あなたはいつも悪事を働いています、悪い主人に仕えています
もしこういうことでもう一度あなたを捕まえたら
今日よりもっとひどい事になりますよ》

- 480 聖母が行っていいと命じると悪魔は喜び
姿を変え逃げ去りました
決して再び修道士を愚弄しようとはしませんでした
悪魔は回復するまで多くの時間を要しました
- 481 これらすべてのことを味わった修道士ですが
ワインの酔いからすっかり醒めていませんでした
ワインも恐怖も彼を打ちのめしていたので
いつもの寢床に帰ることができませんでした
- 482 素晴らしい行いをする尊い女王は
彼の手を取って寢床に連れていき
毛布と寝台掛けで彼を覆い
頭の下に枕をちゃんと置いてあげました
- 483 その上、彼を床に横たえると
右手で彼に十字を切りました、彼はちゃんと祝福を受けました
《友よ—と聖母は彼に言いました—あなたは大変な目に遭ったの
ですから休みなさい
少し眠ればすぐに良くなりますよ
- 484 しかしこの事をあなたに命じます、しっかり言うておきますよ
明日の朝私のある友を訪ねなさい
そして彼に告解をしなさい、そうすれば私とは問題ありません
というのは彼はとても良い人で、あなたに良い罪の償いを与えて
くれますから

- 485 私は私の道を行きたいと思います、つまり誰か苦しんでいる人を救うことです
それが私の喜びであり、変わらぬ勤めです
あなたは祝福され神に託されています
でもわたしの命じた事を忘れないでください》
- 486 その善良な男は言いました、《御婦人、確かに
あなたは私にこんなに大きなお恵みをくださいました
私はあなたがどなたなのか、何というお名前なのか知りたいと思
います
というのは私はこの事で得をして、あなたは何も失わないのです
から》
- 487 その良き婦人は言いました、《良く覚えておきなさい
私は真の救世主を生んだ者です
その方は世を救うために死と苦しみに耐えました
そしてその方に天使たちが仕え、敬うのです》
- 488 そこでその善良な男は言いました、《これは信ずべき事です
この事は、御婦人、あなたから出た事だと
あなたのおみ足に、御婦人、触れさせてください
私は決してこの世でこのような大きな喜びを味わうことはないで
しょう
- 489 その善良な男はなんとかして立ち上がろうとしました

跪いて彼女の足に接吻するために
しかし聖母は待とうとせず
彼の視界からいなくなりました、彼は非常に悲しくなりました

490 彼女がどこへ行ったのかわかりませんでした
しかし彼女の周りに大きな光が輝くのが見えました
彼はどうしても彼女から目を離すことができませんでした
それはもっともな事でした、彼女は彼に多きな親切をしたのです
から

491 次の朝明るくなると
彼女が命じた良き人物を捜し出し
彼に謙虚な面持ちで告解をし
起こった事を包み隠さず話しました

492 告解が終わるとその良き師は修道士に
良い助言と罪の許しを与えました
聖マリアは彼に祝福を与えました
その祝福は彼のおかげで修道会の価値を高めました

493 以前彼が善良であったとすれば、この時からもっと善良になりました
創造主の母である聖なる女王を
常に非常に愛し、彼女に常に敬意を払いました
彼女がその愛の内に受け入れた者は幸せでした

- 494 もう1人の善人、その名は知りませんが
聖マリアが修道士にその人に告解するように命じた人ですが
彼女を揺るぎない愛で愛するするあまり
彼女のためなら首を切られてかまわないと思う程でした
- 495 他のすべての人々、信徒、聖職者、
司祭、参事会員、修道士
これらすべての人が聖母に思いを寄せていました
彼女は苦しむ人をこのようにちゃんと助けることを知っているの
です
- 496 すべての人が彼女を賛美し褒め讃え
手と目を彼女に向かって挙げていました
そしてその^{いさお}勲しを語り、歌で賛美し
昼となく夜となくこのようにして過ごしていました
- 497 友の皆さん、この事が私たちを促してくれるように
皆で聖母を愛し、褒め讃えましょう
こんな素晴らしい事はそのままにしておきましょう
危ない目に遭った時に私たちをちゃんと助けてくれます
- 498 もし私たちが彼女によく仕えるなら、願う事は何でも
すべて叶うでしょう、しっかりそのように信じましょう
その事が今、死ぬずっと前に分かるでしょう
私たちがあちらに預ける物は、正當に使います

- 499 彼女が私たちに恩寵と祝福を与えてくださいますように
私たちを罪と苦しみから守ってくださいますように
私たちの淫らな行いに許しを得てくださいますように
私たちの魂が減びに至りませんように

21 懐妊した女子修道院長

- 500 すぐれた仲間の皆さん
神があなた方をここに導くことを望まれた後で
もう少し私に待ってほしいかも知れませんが
あなた方にもう一つの奇跡をお話ししたいと思います
- 501 あなた方にもう一つの奇跡をお話ししましょう
それは海の星である聖母が起こしたものです
もし私の話しを聞いたら、確かに誓えるでしょう
これ以上美味しいものは味わえないと
- 502 真実が行われていた正しい時代に
その時には人は決してウソはつかず
幸福に生きて年をとって
老境に玄孫を見ていました
- 503 神は人のために日々奇跡を起こしていました
隣人に誰もウソをつこうとしなかったからです
冬も夏も良い天気でした
世はすべてが素朴な様相でした

- 504 人が罪を犯した時にはちゃんと償いをしていました
すると神はすぐに彼らの悪意をすべて許していました
人はイエス・キリストに非常な愛着をもっていました
私はあなた方にこの事の良い例を示したいと思います
- 505 ある女子修道院長について私はあなた方にお話ししたいと思いま
す
私には彼女は間の悪い時に罪を犯したと思います
修道女たちは彼女に嫌悪を示そうとしました
しかし少しも彼女を傷つけませんでした
- 506 この修道女は非常に善良な人でした
とても慎重で非常に慈悲深い人でした
非常に意欲的に修道院を統括していました
修道女たちは規則に従って非常に慎ましく生活していました
- 507 しかしこの修道院長は一度過ちを犯しました
厳しく禁じられている愚行を仕出かしたのです
不運にもひどい毒草を踏んでしまいました⁸⁴⁾
よく見ると自分が妊娠しているのに気付きました
- 508 お腹が胸の方に脹らんでいきました
頬にソバカスができて行きました
あるものは大きく、他のものはもっと小さく
というのは初産婦にはこういったものができるのですから

- 509 この事は仲間の修道女たちに知られました
ついた炎を隠すことはできませんでした
ある者たち取っては彼女の過ちは残念でした
しかし他の者たちにはとても喜ばしいことでした
- 510 彼女はその者たちを強制的に閉じ込めておき
禁じられたことをすることを許しませんでした
その気がふれた不幸な者たちは彼女が死ねばいいと思っていまし
た
こういう事は高位聖職者たちの間でも時々おこりました
- 511 人々はこれは隠しておけない事だと思いました
もしできなければ修道女全員が悪魔に笑われることになるでしょ
う
そこで司教に手紙を送って言いました
司教様は自分たちを訪問していないので訪ねる労を取ってください
いと
- 512 司教は手紙で分かりました
何か争い事が起こったのかあるいは馬鹿な事をしでかしたのかを
自分の務めを果たすために修道院を訪れました
そこで事の次第をすべて見て取りることになったのです
- 513 司教様には宿で休んでいていただきましょう
お供の者たちと落ち着いて眠れるように

私たちは身ごもった修道女がどうしたのかお話ししましょう
 というのは彼女は次の日自分が責められるだろうと知っていたから
 からです

- 514 いつも彼女が休む部屋の近くに
 離れを、よくできた場所ですが、持っていました
 それは彼女がいつも祈りを捧げる祈禱室でした
 祭壇は聖母に捧げられたものでした
- 515 そしてそこには聖なる女王の像がありました
 彼女は世の救いであり癒しでした
 それは美しい色のカーテンで飾ってありました
 すべての人にとって最終的に彼女は代母だったのでから
- 516 次の日自分が厳しく責められるだろうと知っていました
 明らかになった事には何の弁解もありませんでした
 この幸運な修道女は良い助言を受けたのです
 彼女がいかに賢明であったかは驚くべきです
- 517 彼女はたった1人で祈禱室に入りました
 誰も仲間は要求しませんでした
 最初の祈りの後では彼女はがっかりしていました
 しかし神と彼女の運が道を開いてくれました
- 518 彼女は祭壇の前に身を投げ
 像を見上げて泣き始めました

《お助け下さいーと彼女は言いましたー海の星である聖母様
私には助けになる助言が全然ないのです

- 519 母君、私たちはよく読んでいます、書物にも書いてあります
あなたは非常に親切で、非常に節度ある方なので
人は誰でも進んであなたに苦しみを打ち明けるということを
するとあなたはただちにその苦しんでいる人をお助けになります
- 520 あなたは絶望したテオフィロをお助けになりました⁸⁵⁾
彼は自分の血で悪魔と取決めを結んだのです
あなたの良い助言で彼は教会に復帰しました
その事で人は皆あなたに感謝することになるのです
- 521 御婦人、あなたはエジプト人女性をお助けになりました⁸⁶⁾
彼女はとても罪深い人でした、ふしだらな女だったので
あらゆる善が湧き出る祝福された婦人よ
朝になる前に私に何か助言をください
- 522 祝福された婦人よ、私はあなたに仕えることができませんでした
しかしいつもあなたを褒め讃え賛美することを愛していました
御婦人、私は本当のことを言っていますし嘘をつこうと思ってい
ません
死ねるものなら死にたいと思っています
- 523 栄光の王の母君、天国の女王
あなたの恩寵から何が薬を出して下さい

厳しい非難から哀れな女を解き放ってください
これはあなたがお望みになればすぐに可能です

- 524 母君、あなたの愛する御子の愛のために
その御子は難点なく非常に優しく完璧なかたですが
どうか私を拒まないで、このお恵みを私にください
というのは人々が大声で私を責めたてているのが分かるからです
- 525 御婦人、もし私に何か助言をくださらないければ
審問に出る準備ができません
私はここ、この狭い場所で死にたいと思います
なぜなら私が出れば、ひどい扱いを受けるでしょうから
- 526 冠を頂いた女王、純潔の神殿
慈悲の泉、救いの塔
この苦しみにいくばくかの憐れみをお示し下さい
あなたの大きな慈悲が私に途絶えないように
- 527 御子の前であなたに補償したいと思います
もう決してこの過ちに陥らないと
母君、もし違えたら、私に相当の仕返しをしてください
皆が私の不面目を口にするように》
- 528 彼女は非常に熱心に祈りを捧げたので
恩寵に満ちた母君は聞き届けられました
彼女は眠気に襲われた人のように大いなる幻を見ました

それは人を教化するようなものでした

- 529 婦人は非常に疲れて居眠りをしました
神は憐れみからすべてを取りはからっていました
栄光の王の母君が彼女に現われました
そして彼女と共に二人の光り輝く天使も
- 530 婦人は恐れ、非常に驚きました
このような光景に慣れていなかったからです
非常な明るさにととてもとても当惑していました
しかしその苦痛からかなり解放されました
- 531 聖母が彼女に言いました、《元気を出しなさい、修道院長、
私が付いています、嘆いてはいけません
あなたに非常に良い約束を持ってきたことを知りなさい
あなたの副院長もそれ以上のものは望まないでしょう
- 532 侮辱されること恐れてはいけません
そのワナに落ちないように神があなたを守ってくださいます
勇気を持って彼らのところへ行き、面会しなさい
それによってあなたの背骨が傷むことはないでしょう
- 533 美しい乙女マリアの安らぎになるように
母は何の苦痛も感じることなしに
赤子が生まれました、とても素晴らしいことです
聖母は二人の天使にそれを取りあげに行かせました

- 534 聖母は天使たちに言いました、《あなた達二人に告げます
この赤子を私の友であるある人の所へ連れて行きなさい
彼にこの子を私に代わって育てるように言いなさい、そのように
私は彼に命じます
彼はあなた達を信じるでしょうから、それから私の所へ戻って来
なさい》
- 535 天使たちはとても軽やかに動き
快くそれを実行に移しました
それはその（命じられた）隠者には莫大な富よりも嬉しいことで
した
彼には実に素晴らしい贈り物だったからです
- 536 出産した母親は意識が戻り、十字を切って
言いました、《お助け下さい、冠を頂いた女王である聖母様
これは本当なのでしょうか、それとも私は騙されているのでしよ
うか
祝福された御婦人、この罪人をお助け下さい》
- 537 彼女は意識を取り戻した時手で自分の体を触ってみました
腹や脇腹や腰のあたりを
腹が萎んで腰がとても痩せたのに気付きました
そのようなことから解放された女のように
- 538 どうしても信じることができませんでした

それは夢で、現実のことではないと思いました
 三度目に自分の体を触って、観察して
 結局確かだと思いました

- 539 この哀れな妊婦が解放されたと感じると
 袋の悪い粉が空になりました
 彼女は大喜びで、《サルヴェ・レジーナ》⁸⁷⁾を歌い始めました
 それは悩める者たちの慰めであり薬です
- 540 彼女は喜びのあまり泣き濡れ
 乙女マリアに素晴らしい賛辞を捧げました
 司教も修道女たちも怖くありませんでした
 ひどい煩いは終わったのですから
- 541 彼女は泣き濡れて祈りを捧げ
 聖母に賛辞と賛美を送りました
 彼女は言いました、《母君、いつもあなたが賛美されますように
 女も男も常にあなたを褒め讃えるべきです
- 542 私は恐ろしい苦悩とひどい恐れの中にいました
 私があなたの足下にひれ伏して私の苦しみを伝えると
 御婦人、あなたの良き取り計らいが私を助けてくれました
 あなたはすべての被造物に賛美されるべきです
- 543 母君、私は誰もましてあなたを祝福し
 賛美し、褒め讃え、崇拜し、仕えなければなりません

あなたは私をこのような大きな不名誉から守って下さいました
それは皆がいつまでも私を笑い者にしかねないものです

- 544 もし私のこの罪が審議会に出たとしたら
私はすべての女たちのひどい笑い者になるでしょう
母君、あなたの助言は何と偉大で有効なのでしょう
そのようなことは大きい人も小さい人も考えつかないでしょう
- 545 あなたが私に示してくださった憐れみとお恵みを
母君、あなたに何と感謝したらよいのでしょう
私は、母君、そのようなことには値しない人間です
しかし私は決してあなたに感謝するのを止めないでしょう
- 546 その婦人はとっぷり瞑想にひたっていたのでしょう
聖母を賛美し、祈りを捧げながら
しかし彼女のところに修道会から命令が届きました
参事会に出て返答するようにと
- 547 彼女は侮辱されるのを恐れていなかったので
ただちに司教の足下に参じました
彼女は然るべく手に接吻しようとしてしました
しかし司教は手を差し出そうとしませんでした
- 548 司教はすぐに彼女を叱責し始めました
苦しまなければならぬようなことをしたことを
そして修道院長でいることなどとんでもない

他の修道女たちと住むこともまかりならないと

- 549 《このような重大な破廉恥行為をする修道女は誰でも
そういう者は自分の体を保つこともできず貞操観念も持ち合わせていないのだが
修道会から追放されるべきで
好きな所でそのような汚らわしい事をすればよいのだ》
- 550 《司教様—と彼女は言いました—なぜあなたは私をひどいめに遭
わせるのですか
私は幸いにもあなたの考えているような者ではありません》
《御婦人—と司教は言いました—あなたが否定しても
証明しなければ信じてもらえないでしょう》
- 551 《御婦人—と司教は言いました—宿舎へ行きなさい
会議があります、その後で別の方法を見つけましょう》
《司教様—と彼女は言いました—何も悪く決めないでください
私はお助けくださる神にこの身を委ねます》
- 552 修道院長は会議場から出て
司教が命じたように（修道院の）居住区に行きました
参事会は怒りと憎しみの中で開かれました
大麦の粉⁸⁸⁾で生地をこねたのです
- 553 司教は修道女たちに言いました、《皆さん、私たちはできないの
です

証明しないでこの御婦人を責めることは》
修道女たちは言いました、《私たちがよく知っていることの他に
司教様、他の証拠がなぜ必要なのでしょうか》

- 554 司教は彼女らに言いました、《彼女が負ければ
あなた達はさらに正しく、彼女はさらに困惑するでしょう
そうでなければ、わたしたちの出す裁定は非難され
結局彼女に逃げ道を与えられなくなります》
- 555 司教は最も信頼している司祭たちを送りました
事がどうなっているのか証明するように
彼らはいやがる彼女からスカートを取り去りました
彼女は非常に痩せこけていて板のように見えました
- 556 彼らは彼女に妊娠の印しを見つけられませんでした
乳も悪行の痕跡も見られませんでした
彼らは言いました、《これは幻以外の何ものでもない
このようなひどい偽りはあったためしがない》
- 557 彼らは司教のもとに帰って言いました、《司教様、
あの修道女は故なく罪を着せられているとご承知おきください
他の事を言う者があって、あなたの名誉を救ったとしても
その者はあなたにこれ以上ないようなとつてもないうそを
ついています》
- 558 司教は彼らは騙されたのだ

その婦人が彼らに約束のお金を払ったのだと思い
言いました、《悪者たちよ、あなたたちの言っていることは信じ
られない
彼女は服の下に何か隠しているのだから》

559 司教は言いました、《私はあなたたちをそうすぐには信じたくな
い

あなたたちは恥知らずなのかそれともお金をもらったのかだ
私はこの事を自分の目で確かめたい
そうでなければこれを咎めた者は苦しむに違いない》

560 司教は座から立ち上がり

激怒して修道院長のところへ行きました
彼女に無理やり修道服を脱がせて
人々が彼女に着せた罪が偽りだと確かめました

561 司教は怒り非常に荒々しく修道院に戻りました

《皆さん—と言いました—あなたたちは大きな背信行為を
犯しました
あの御婦人をこんなひどい目に遭わせました
あなたたちの修道会はひどい嘲りを受けています

562 この事は裁きなしにはすみません

あなたたちが彼女に着せようとした罪は
それがあなたたちに降り掛かるように法令⁸⁹⁾は定めています
あなたたちはここから追放されなければいけません》

- 563 修道院長は重い裁きを受けた修道女たちを見ました
彼女たちは修道院から追放されることになっていました
院長は15歩ほど離れた所に司教を連れて行き
《司教様—と言いました—彼女たちはそんなに悪くないのです》
- 564 彼女はなぜこのような事になったか
彼女の重い罪のためにどのように欺かれたのか
いかに冠を戴いた乙女が彼女を助けたのか
もし乙女がいなかったら、ひどい中傷を受けていたろうことを彼
に話しました
- 565 そしていかに乙女が赤子を連れて行くように命じたのか
いかに隠者にその子を育てるように命じたのかも話しました
《司教様、お望みでしたらそれを証してください
お願いですから、修道女たちが居場所を失わないように
- 566 私が1人で恥をかくほうがましです
こんなに多くの善良な修道女たちが追放されるよりも
司教様、哀れんでやってください、今回は許してやってください
彼女たちすべてに代わって私に罪の償いをさせてください》
- 567 司教は驚いて、顔色を変えて
言いました、《御婦人、もしこれが証できたなら
私はイエス・キリスト様があなたに満足しているのがわかるで
しょう

私は生きている限りあなたの頼みを実行するつもりです》

- 568 司教はただちに二人の参事会員を隠者の下へ送りました
この事が本当かまやかしか証するために
すると彼らはその善人が奇妙な服を着ているのを見ました
布にくるんだ赤子を抱いて
- 569 隠者は彼らにその日生まれたばかりの子供を見せました
彼は聖マリアがその子を育てるように命じたと言いました
これを疑う者はひどい愚行を犯すことになるでしょう
というのはこれは正真正銘の真実で、ごまかしではないからです
- 570 彼らはただちに伝言を持って司教のところへ戻り
彼らの確かめた事を彼に知らせ伝えました
《司教様—と彼らは言いました—この事については確かだとお認め下さい
そうしなければ、あなたは大きな過ちと大罪を犯す事になるでしょう》
- 571 司教はその婦人の事で自分が間違ってたと思いい
彼女の足下にひれ伏しました
《御婦人—と彼は言いました—憐れんでください、私は大きな過ちを犯していました
私の過ちが許されるようにあなたにお願いします》
- 572 《司教様—と彼女は言いました—神と聖母のために

節度をわきまえて下さい、そのような事はしないでください
 あなたは聖なるお方で、私は病める^{つみびと}罪人です
 元通りお立ちいただかなければ、私は怒りますよ》

- 573 彼女は司教にこのように異議を唱えました
 しかし彼らは完全な一致に達したのです
 二人はずっと愛情と善意を持ち続け
 非常に根気よく修道生活を送りました
- 574 司教は修道院に平和をもたらし
 争いと不一致にけりをつけました
 別れようとする時、司教は彼らに祝福をあたえました
 その訪問は皆にとって良いものでした
- 575 司教は聖なる隠者に挨拶の手紙を送りました
 良き友として、そして代父²³⁾としての隠者に
 七歳までその子を育ててくようにと
 その時が来たら彼はその子を良きキリスト教徒にしようとしてく
 れるでしょう
- 576 七年が過ぎてその時が来た時
 司教は司祭のうち最も高潔な者から二人を送りました
 子供を山から人里に移すようにと
 彼らはよく教えられたようにそれを果たしました
- 577 彼らは荒地で育った子供を連れて行きました

歳の割には良く教育されてきました
司教は喜び、その事にとても満足し
博学の先生について読み書きを学ぶように命じました

578 その子はすべてにおいて節度のある善人に育ちました
良い主^{あるじ}に育てられたように本当に思われました
町全体が彼にとても満足していました
司教が死ぬと彼は司教の位を譲り受けました

579 彼を育てさせた聖母が彼を導き
彼は神と共に司教区を良く導くことができました
人々の魂を然るべく良く導き
すべての事において良く節度を守る術を知っていました

580 人々や聖職者たちも彼を愛していました
参事会員たちもすべての修道院も彼を愛していました
すべての人がどこに居ようとも彼の生涯のために祈っていました
愚行を愛する何人かの狂人を除いては

581 臨終の時が来たとき
彼の女主人（聖母）は彼を長く苦しませず
彼を安全な所、栄光へと導きました
そこは盗人も裁判官⁹⁰も決して入れない所です

582 栄えある乙女に皆で感謝を捧げましょう
彼女については私たちはこんなに多くの奇跡を読み証しています

彼女が私たちに彼女に仕えることができるお恵みを与えてくださいますように
 そして私たちが救われるような事をするようにお導きくださいますように (アーメン)

22 救助された遭難者

- 583 皆さん、もしよろしければ、明るいうちに
 このような奇跡についてあなた方にもっとお話ししようと思いま
 す
 ご不満でなければ、私も不平は言いますまい
 というのは聖マリアは深い井戸のようなお方ですから
- 584 聖マリアは水量豊かなの川のようなお方です
 そこから皆が、獣も人々も水を飲みます
 明日も昨日のように豊かで、涸れることはありません
 暑い時も、寒い時もいつも流れています
- 585 彼女はいつもすべての場所に駆けつけてくれます
 谷でも山でも陸でも海でも
 清い口で彼女に願うことのできる人は
 わき腹が痛むことはないでしょう
- 586 私たちは聖なる御母のある奇跡のことを読んでいます
 それは愛徳の人である1人の司教に起こりました
 彼は非常に権威のあるカトリック教徒で

その奇跡を自分の目で見て本当のことを良く知っていました

- 587 彼は見た通りにそれを書きました
何も削らず、何も付け加えませんでした
神が彼に天国を与えたまわんことを、十分に値するのですから
彼はそのような価値のあるミサを挙げたわけではないのですが
- 588 巡礼たちが聖地に行くために十字軍に加わりました
聖墳墓にお参りし、本物の十字架に祈りを捧げるためでした
彼らはアクレ⁹¹⁾を経由するために船に乗りました
もし天なる父が導いてくださるならと
- 589 乗船すると順風と
非常に穏やかな天気と、一面風いだ海に恵まれました
陽気な一行はとても喜びました
このような天候なら速く海を渡れたでしょう
- 590 海路の大部分を渡ったところでした
間もなく対岸に着いたでしょう
しかし運命が彼らを待ち伏せていました
大きな喜びが悲しみに変わりました
- 591 嵐が来て激しいしけになりました
船を走らせていたしていた船主は気もそぞろになり
自分自身にも他の人々にも全然指示を出すことができませんで
した

彼の腕前も何の役にも立ちませんでした

- 592 もう一つのこと、もう一つの大事件が彼らに起こりました
舟底が破損したのです
大量の水が入って来るのが見え、四方が破壊されました
すべての事が破滅に向かっていました
- 593 その大船の近くにもう一艘の小さな船がついていました
ガレー船というのか小型帆船というのか知りませんが
しげに悩まされたとしても
その小型船ならばその危機から逃れられるかもしれません
- 594 船長は立派なキリスト教徒として振る舞いました
司教の手を取って
他の身分の高い人達と
その船に乗せました、彼は正しい手段を取ったのです
- 595 巡礼者の1人が自分はずる賢いと思い
船から飛び降りたのです、身が軽かったからです
ガレー船の方へ同乗者として戻ろうとしていました
彼は溺れ死にました、しかしこうなったのは彼一人ではありませんでした
- 596 ほとんど半時間も経っていませんでした
神がそうなることを望んで、船は沈められました
中に残った人々のうち

誰も生き延びたものはいませんでした

- 597 司教と彼と一緒に逃げた人々は
できるだけ近い岸にたどり着き
亡くなった人々のことを非常に悲しみました
なぜ自分たちと一緒に助からなかったのか悔やみました
- 598 死者に対する大きな悲しみと悔恨から
彼らは目を見開いて、海を見やりました
死者のうち誰かが流れ着くのではないかと思って
というのは海は決して死んだ物を隠そうとはしないからです
- 599 何人かの死者が見えるのではないかと目を凝らしました
土の下の墓に埋めてやるために
そのとき彼らは海の中から小鳩が生まれるのを見ました
死者の数と同じだけいるのでしょう
- 600 彼らは海の中から小鳩が出てくるのを
そしてそれらは雪よりも白く空に向かって飛んで行くのを見まし
た
それらは神が引き上げようと望んだ魂だと思いました
栄光の場所である聖なる天国へと
- 601 当然の嫉妬から彼らは呆然としていました
なぜなら自分たちは生きていて非常な悔恨を抱いていたからです
というのは疑う余地なく確信していたのですから

小鳩たちは海が呑み込んだ人達の魂だと

602 彼らは言いました、《ああ、巡礼者たちよ、あなたたちは幸運でした

すでに“火と水を”⁹²⁾くぐったのだから

私たちは見捨てられたように荒地にいるのです

あなたたちが安らかに寝ているときに私たちは目覚めています

603 聖なる父と聖マリアに感謝

すでにあなたたちは巡礼のシュロ⁹³⁾を身にまとっています

私たちは悲しみの中に、あなたたちは喜びの中にいます

私たちは正しい判断をしようとして馬鹿な事をしてしまいました》

604 彼らは自分たちに降り掛かった大きな災難を嘆いていましたが
旅を続け、旅程に戻ろうとしました

すると海の中から1人の旅人が出てくるのを見ました

それは哀れな巡礼のようでした

605 その男が岸について彼らの所に来ると、

皆がそれが海に飛び込んだ者だと分かりました

皆が十字を切り言いました、《一体どのようにして

生きながら一時間も海の中にいたのですか》

606 その旅人は言いました、《どうか私の言う事を聞いて下さい

私があなたたちが疑っている事をはっきりさせましょう

あなたたちに私がどのようにして生きて脱出できたのか知ってほしいのです

それを聞けばすぐにあなたたちは“神に感謝”⁹⁴⁾と言うでしょう

- 607 私が大きい船から飛び出そうとした時
というのはそれが見た目にも沈みそうに思えたからです
死は避けられないものと感じていました
“聖マリア、私を助けて下さい”と私は唱え始めました
- 608 私は“聖マリア、私を助けて下さい”と言う言葉を唱えました
それ以上言うことができませんでした、時間がなかったからです
するとすぐに彼女は自分の喜びとする事の用意ができました
彼女がいなかったら私は溺れているでしょう
- 609 すぐに彼女は準備ができて、良質の布を携えました
その布は高価な物で、そのような物は見たことがありませんでした
彼女は上から私にそれを投げかけて言いました、“あなたに
害はありません
眠ったとかお風呂に入ったと思いなさい”
- 610 そのような素晴らしい品を生身の人間が見たことはありません
それは天使の作品でした、材料をつかっていないのですから
私は天幕の下にゆったり横たわっているようでした
あるいは緑の牧場まきばで眠りこんだ人のようです

- 611 魂は幸福で幸運でしょう
それはこんなに素晴らしい蔭の下で安らいでいるのです
寒さも暑さも風も霜も
妨げとなるような不快を魂に与えることはないでしょう
- 612 この布に包まれてで楽しく満足して憩うのです
キリスト様に愛された栄えある乙女たちが
彼女たちはその母君に繰り返し賛辞を送ります
そして美しい名誉ある冠を戴くのです
- 613 その布の影はちょうど良い温度なので
暑さを感じる人はその下では涼しさを
寒さを感じる人はちょうどいい温もりを見いだします
神様、困った時には何という素晴らしい助けでしょう
- 614 彼女の恵み、その慈悲
その徳、その善良さは非常なものなので
司教も修道院長もそれらを語り得ないでしょう
また王も権力者も思いが及ばないでしょう》
- 615 危険な目にあった者たちが抱いていた悔恨は
奇跡の喜びですべて忘れました
そして神に感謝を捧げ、《テ・デウム》⁸³⁾を歌いました
それから《サルヴェ・レジーナ》⁸⁷⁾をやさしく歌って終わりました

- 616 それから巡礼者たちは巡礼の旅を全うし
大いなる喜びをもって聖墳墓にたどり着き
マリアの御子の十字架を崇拜しました
この世でこんな素晴らしい日はありませんでした
- 617 彼らは聖母のその奇跡を話しました
いかにして危険な海からその人を解き放ったのか
皆はそれは不思議な事だと言いました
彼らはその事について書き残しました、とても素晴らしい言い伝えです
- 618 この聖なる話しを聞いた者は皆
聖母を賛美しました
彼らは彼女に仕えるためにより厚い信仰心を抱きました
彼女から恩恵と褒美を期待したからです
- 619 この出来事の評判は海を飛び超えました
風もそれを止められず、多くの家々に住みつきました
いろいろな場所でこの評判は本になり
そのためそれは今日多くの人の口から賛美されています
- 620 聖母を賛美する者は皆
栄光の王によって、正しい事をしているのです
なぜなら私たちは彼女によって悲惨な牢獄からでることができ
からです
そこは私たち皆が横たわっているととても危険な穴なのです

- 621 エバによって破滅に陥った私たちは
聖母によって失った土地（天国）を回復します
彼女がいなければ私たちは死んだように横たわっているでしょう
しかしその聖なる果実が私たちをあがなってくれました
- 622 彼女が身ごもったその聖なる果実によって
その果実は世の救済のために受難と死を耐え忍んだのです
それによって私たちはアダムが私たちに空け穴から抜け出すので
す
それは彼が悪の禁を侵して一口食べた時にできたものです
- 623 それ以来常に彼女は苦しむ人を助け
不幸な人々を導き、道を踏み外した人々を呼び戻すために戦って
いるのです
陸でも海でも素晴らしい奇跡を起こしています
それらは語られている通りの、そしてもっと大きな奇跡です
- 624 恩寵に満ちあふれる彼女が
私たちの行い、私たちのつらい人生を導いてくださいますように
この世で私たちを災いからお守りくださいますように
あの世では聖人たちとの住処を私たちに勝ち取ってくださいます
ように（アーメン）

注

84) borraja（ルリチシャ）を踏むと妊娠するという言い伝えがあった

- 85) 後述の「25 テオフィロの奇跡」参照
- 86) 後述の「25 テオフィロの奇跡」参照
- 87) ラテン語の聖歌 *Salve Regina* (ご機嫌よう、女王様―筆者訳) 注 49 参照 *サルヴェ・レジーナ* はカトリック式発音
- 88) 「質の悪い粉で」の意で、参事会の議論のレベルのことを指しているであろう
- 89) 1140年にイタリアのポーロニャで書かれた *Decretum Gratiani* のこと
- 90) 当時の悪徳裁判官からきた言葉であろう
- 91) 聖地巡礼者が通る港町
- 92) 旧約聖書詩編 66、12 “火と水を”、この部分ラテン語 “*per ignem e(t) per aquam*”
- 93) シュロは巡礼者と殉教者のシンボルで、聖地巡礼者はそれを携えて行く習慣があった
- 94) この部分ラテン語 “*Deo gratias*”